

火の魂カンパニーの仲間たちへ、6月の一ヶ月もお疲れ様でした。

6月は2016年度の新卒採用の内定式が行われ、来年度には新卒の男性1名、女性1名の計2名が火の魂カンパニーに入社を決めてくれました。両親が大学まで行かせ、大事に育て上げた大切な御子息を預かる事が出来たわけですから、我々、火の魂カンパニーとしても全力で育て上げていきたいと思っております。

さて、そんな2名の内定者が火の魂カンパニーを選んだ理由は、先月の手紙でも書いたように、仕事に対する考え方や、仕事をする上での大切な価値観に共感したからです。その我々の大切にしている考え方や価値観を知ってもらうために内定者に話した【三人のレンガ積み職人の話】を、今月は書いてみたいと思います。

-----【三人のレンガ積み職人の話】-----

世界中を回っている旅人が、ある町はずれの1本道を歩いていると、1人の男が道の脇で難しそうに顔をしながらレンガを積んでいました。旅人は、その男のそばに立ち止まってたずねました。

「ここでいったい何をしているのですか？」すると、男はこう答えました。

「見ればわかるだろう。レンガ積みをしているのさ。毎日毎日、雨の日も強い風の日も、暑い日も寒い日も1日中レンガ積みだ。なんでオレはこんなことをしなければならないのか、まったくついてない。」

旅人は、その男に「大変ですね」と慰めの言葉を残して、歩き続けました。

しばらく行くと、一生懸命レンガを積んでいる2人目の男に出会いました。しかし、その男は、先ほどの男ほどつらそうには見えませんでした。そこで、また旅人はたずねました。

「ここでいったい何をしているのですか？」すると、男はこう答えました。

「オレはね、ここで大きな壁を作っているんだよ。これがオレの仕事でね。」

旅人は「それは大変ですね」と、いたわりの言葉をかけました。

すると、意外な言葉が返ってきました。**「なんてことはないよ。この仕事でオレは家族を養ってるんだ。この仕事があるから家族全員が食べていけるのだから、大変だなんて言ったらバチが当たるよ。」**旅人は、その男に励ましの言葉を残して歩き続けました。

さらにもう少し歩くと、3人目の男が生き生きと楽しそうにレンガを積んでいました。旅人は興味深くとずねました。

「ここで、いったい何をしているのですか？」すると、男は目を輝かせてこう答えました。

「ああ、オレたちのことかい？オレたちは歴史に残る偉大な大聖堂をつくられているんだ。」

旅人は「それは大変ですね」と、いたわりの言葉をかけました。

すると男は、楽しそうにこう返してきました。**「とんでもない。ここで多くの人が祝福を受け、笑顔になり元気になるんだ！素晴らしいだろう！」**旅人は、その男にお礼の言葉を残して、元気いっぱい歩き始めました。

1人目はイヤイヤ仕事をする職人、2人目は家族を養うため、3人目は人が笑顔になり人の役に立つ仕事

我々、火の魂カンパニーは3人目の職人と同じ、人が笑顔になり元気になる会社であり、【一杯のラーメンで世界中が元気にする】を実現させ、世のため人のためになる社会の役に立てる会社を目指しています。

皆さんは、何人目のレンガ職人と価値観が合いますか？